

日本における毎年の死亡者数は？

世界は人口増、先進国においては高齢化が進む。日本はその最先端グループを走っている。人間社会は「生老病死」の世界、人の寿命は有限。高齢化社会に伴い年間の死者数は増加の傾向をたどるのはごく自然なことです。

国の「人口動態統計」による日本の年間の死者数は

2017 (平成29) 年	約134万人	
2018 (平成30) 年	約137万人	+3万人
2019 (令和1) 年	約139万人	+2万人
2020 (令和2) 年	約138万人	-1万人

■ 月平均 11、5万人ほどが亡くなっている。

■ 2020年は3466人の新型コロナ死亡者が新たに加わったが、死亡者数合計は1万人減 他の病気の死亡者が減った

2019年まで、過去10年、日本における死者数は増加している。しかし、2020年度、今までなかったコロナ死亡者が3466人、発生した。更に自殺者21081名(912名増、警察庁)にもかかわらず、日本全体の死者数は前年より減少した。死者数の前年割れは11年ぶりの現象。

コロナ禍で国民が健康に注意したお陰で、コロナによる死者が新たに発生したが、他の病気による死者が減少し、国全体の死者数がは前年比、1万人ほど減少した。

2020年の死因

1位	がん	27,6%	378 356人	1931人増
2位	心疾患	15,0%	205 518人	3808人減
3位	老衰	9.6%	132 435人	1万572人増
4位	脳血管疾患	7.5%	102 956人	3596人減
5位	肺炎	5.7%	78 445人	1万5645人減
6位	誤嚥性肺炎	3.1%	42 746人	2,361人増
7位	不慮の事故	2,8%	38 069人	1115人減
8位	腎不全	2,0%	26 946人	302人増
9位	アルツハイマー病	1,5%	20 852人	122人増
10位	血管性及び詳細不明の認知症	1,5%	20 811人	583人減

日本では過去のインフルエンザで毎年1000万人が感染し、約3000人が亡くなってきたが、ほとんど報道されることはなかった。一定程度の感染や死が社会で許容されていたのでしょうか。

2020年以降、日本におけるコロナ報道は国民をパニックに陥れるものが多く、感染者・死者の増減に一喜一憂するだけでなく、コロナが社会的にどこまで許容されるかを議論する時期に来ていると感じます。

日本における

	インフルエンザ患者数	インフルエンザ死者数
2017 (平成29) 年	約1000万人	2569人
2018 (平成30) 年	約1000万人	3325人
2019 (令和1) 年	約1000万人	3231人
2020 (令和2) 年	約730万人	932人

2020年のコロナ死亡者数 3466人

2017年から2019年のインフルエンザ死者数に近い

日本の新型コロナ感染者数は約84万2211人、死者数は約1万5063人 死亡率1、8%
退院79万7867人(94、7%)

2021年7月18日 NHKまとめ

国内の感染確認 84万1690人 死者 1万5050人
世界の感染者 1億9000万人 死者 408万人
朝日新聞7月19日

2020年、インフルエンザ死亡者は932人 2371人減少、
コロナ死亡者が3466人、熱中症1515人
交通事故死者数・2839人。交通事故死者数は統計開始以来最小を更新し初めて3000人を下回る。日本のコロナ死者数3466人は交通事故死者数を627人上回る。自殺者は21,080人(912名増)

冬場のヒートショックによる死亡者数は約1万7000人(大半が持病持ちの高齢者)。冬場の温度差による血圧変化⇒心筋梗塞・脳溢血などが発生。野球の野村監督も風呂の中で死んでいた。毎年のように、ヒートショック死は後を絶たないが、高齢者に風呂に入るな!・・・とは言いません。気を付けましょう・・・のレベルです。

日本での新型コロナによる死亡者累計はは2021年7月19日現在、1万5850人。年間のヒートショック死亡者数に近い数です。新型コロナは感染症ですので、細心の注意が大切です。

日本に於けるコロナ死者数は左表の死因10位の認知症以下。認知症だから、出歩かないように言いますか？

コロナ対策は重要だが、人間活動・商業活動を大幅に制限することには大きな疑問を感じる。